

コウノトリ野生復帰推進計画(2期) 概要版

序章 コウノトリ野生復帰推進計画(2期)の基本的な考え方

コウノトリ野生復帰推進計画は、取組に多様な主体が関わり、コウノトリの野生復帰を推進するとともに、人と自然が共生する地域づくりを実現することを目的としている。

人とコウノトリも含めた生き物すべてが共生できる環境の再生、回復を基本認識としつつ、コウノトリ野生復帰ランドデザインやコウノトリ野生復帰推進連絡協議会の活動成果等を踏まえて現行計画を見直し、本格的野生復帰の取組を但馬地域の人々の参画と協働によって進めるコウノトリ野生復帰推進計画(2期)を策定する。

第1章 第2章 コウノトリの特性と保護の現状、但馬地域の農業と自然環境の現状

●コウノトリの特性

分類、形態、分布、生息数、繁殖等

●但馬におけるかつての生息状況と保護の現状

明治時代の狩猟の解禁、営巣木であるマツの伐採、戦後の土地改良等による生息地の減少、農業使用等により昭和46年に野生下で絶滅。野生復帰の取組により、現在、但馬地域では野外に約50羽が生息

農業と農地の状況

河川の状況

里山林の状況

生物生息環境の状況

農業の現状、農地の変遷、水利用施設の状況

流域の現状、河川の変遷

営巣可能なマツ林等の現状、山林の変遷

農地の自然環境、流域の自然環境、コウノトリを取り巻く生態系の状況

第3章 第4章 第5章 野生個体群の確立、生息環境の整備、野生復帰を支える社会の構築における取組の方向性

項目	これまでの取組、課題
安定したコウノトリ野生個体群の確立	放鳥
	繁殖
	野外個体群の形成
	なわばり
コウノトリの生息環境の整備	給餌
	水田
	水系から水田等への連続性
	河川
コウノトリの野生復帰を支える社会の構築	湿地ネットワーク
	里山林
	放鳥
	繁殖

2期計画での取組の方向性

- ・豊岡盆地個体群と飼育個体群の維持
- ・給餌からの段階的脱出
- ・なわばりの適正配置
- ・豊岡個体群から但馬地域個体群への拡大

- ・環境創造型農業等の推進
- ・水系から水田等への連続性の確保
- ・自然と共生する河川の整備
- ・豊かな湿地ネットワークづくり
- ・自然と共生する里山林整備
- ・関係機関の連携による生息環境の一体的な整備

- ・多様な主体による活動の展開
- ・情報発信
- ・環境学習・教育の推進
- ・環境と経済の好循環
- ・環境創造型農業と人々の暮らし
- ・コウノトリに関わる人材の育成

第6章 まとめ～コウノトリと共生する地域づくりを目指して～

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の構成団体を中心として、これまで以上に多様な主体が連携、協力しながら、但馬地域が世界に誇る「コウノトリと共生する地域づくり」の実現を目指して取り組み、安全で安心できる豊かな環境を「次世代の幸せ」として子どもたちに遺していく。

